
セフィリア堕



陵辱の連続だった日々から一変、まったく快感を得ることの出来ない状態での監禁生活。
淫乱なメスの体に変わってしまったセフィリアにとってそれは何より過酷な拷問だった。
一週間後、耐え続けて限界まで来ていたセフィリアの体に最後の陵辱が待っていた。


度重なる陵辱
さまざまな方法でプライドを崩されながらもギリギリのところで理性を保っていたセフィリアだったが
ついに火照る体を鎮めるために自慰行為をしてしまう
それをクリードに見られ…

セフィリアハード
最終話

「真実」

作／カーマイン


セフィリア 今日からもう 格闘大会にでなくても いいよ
夜も客の相手を しなくてもいい
今日からずっと その部屋にいて もらおうか
くつろいでもらって かまわないよ



それじゃあ また後で…
……
フフフ…
クリード… 今度はいったい何を…
この服… とくに体にたいして 何かの刺激を与える ものでもなさそうだし…
まぁいいわ… この間に 脱出の策でも練らせて もらいましょう…
しかし セフィリアの考えは あまかった


1日100回以上
イカない日はなかった
セフィリアにとって
突然の静寂は
想像以上に過酷だった
二時間後
はぁ
ぶる
ぶる
はぁ
……
…ッ…
ぶる
ぶる
ギュッ
はぁ
はぁ


ギッ
…ッ…
ナノマシンによって
性の虜にされてしまった体は
ぶる
ぶる
セフィリアの心とは裏腹に
快楽を求めて
もだえ苦しんでいた
ぶる
ぶる


ぶる
ぶる
ここでまた
自慰をしてしまっては
クリードの思うつぼ…
…っ!!
ぶる
ぶる
ビクッ
絶対に耐えないと…!
ギュッ
絶対に…!
…っ!!
ビクッ



ぶる ぶる
これ以上
あの男の思い通りになるわけには…
……!!
ぶる ぶる
ダメだ…!
……ッ!!
ズッ
ビクッ
ビクッ


えっ…！


か…感じない…
何も…！
ドクン
ドクン
どうして……
なるほど……
そういうことか…
このスーツは
外からの刺激を
遮断する特殊なもの…
私が自らの手で絶頂を
むかえられないように…


気づいたようだね
セフィリア
もしそのスーツを
脱がせて
欲しかったら
いつでも
お願いしたまえ
……!
ドキッ
まぁ
クロノスのNo 1の
セフィリアともあろうものが
敵地でオナニーを
したくなるなんてことは
ないかな?
ククク…
くっ……
それから
セフィリアにとって
今までとは違う
拷問がはじまった


ぷる
ぷる
・・・っ!!
ギュッ
んっ・・・!!
ぷる
ぷる
・・・っ!!
くっ・・・!!
ギュッ


どんなに
イキたくなっても
決してイクことが
できないという
ビクッ
……!!
ビクッ
……ッ!!
ぶる
ぶる
淫乱なメスに
したてあげられた
セフィリアの体にとって
もっとも過酷な拷問
ギシ
んっ……!!
ギシ


自分の意思に反して
無理矢理イカされていた
今までとは違い
ぶる
ぶる
ビクッ
……っ!!
ビクン
自らの意思で
イキたくなっていると
いうことが
セフィリアのプライドを
より責め立てていた


グッ
ぶる
ぶる
絶対に…
絶対に耐えてみせる…!!
イキたい……
絶対に…
自ら敗北を認める
わけには…
イキたい…
ビクッ



日をますごとに
イクことへの欲求は
高まり……
意思と反して
指を動かすが…
イキたい…
ぶる
ぶる
イキたい……
ビクッ
ビクッ



はあ
はあ
決して イクことは 出来ず…
ぶる ぶる
……!!
はあ
四六時中 悶えるのみだった…

セフィリアハード
第１０話

「一週間」

作／カーマイン


やぁセフィリア
久しぶりだね
ククク…
ぶる
ぶる
ぶる
ぶる
はぁ
はぁ
はぁ


クリード…！
どうだったこの一週間
しっかり休めたかな？
…次はどんな
卑猥なことをするつもりですか…？
おや？
なんだかいやらしいことをされるのを望んでいるように聞こえるけど？
…！



あっ…！
グッ
……！
ドキッ
ムリしなくてもいいよ
待ちわびているんだろう？


はあ
……
はあ
はあ
はあ
ぶる
ぶる


そろそろまた
ゲームを
しようじゃないか
キミの剣を
用意してある
ナノマシンの
解除剤もあるし
外部への通信機器も
ある
これらは
自由に使ってもらって
かまわない
ただし
この二人の攻撃を
かいくぐることだけが
条件だ
今回は何も
卑怯なことはしない
ナノマシンで
体を操ったりも
しないよ
………



さぁ
スタートだ
くっ…今の状態でまともに戦うのは不利…
でも…まずは攻撃を回避しながらクライストを手にすることができれば…




まずクライストを…!
ダメか…!
くっ……
おっと!
グッ
ムニ




もみ
あぁっ!!
ビクッ
もみ
ビクッ
ギュッ
乳房への愛撫が
くすぶっていたセフィリアの
官能の炎を激しく
燃え上がらせてしまった
一週間
おさえられ続けた絶頂感が
一気に押し寄せてくる
ぶるぶる


さっきは惜しかったなぁ
ぶるぶる
もうちょっとで剣に手が届きそうだったのになぁ
・・・っ!!
もみ
もみ
もみ
ざ～んねん
あっ・・・!!
胸もんでるだけで感じまくってるのが伝わってくるぜ
・・・っ!・
ビクッ
ビクッ
んっ!!



へへ…二つの乳首を同時に吸ってやろうか？
ぶるぶる
や…やめっ！
もみ
もみ
もみ
……っ!!
ちゅうう
む…胸だけでイッてしまう…
ちゅうう



ビク☆
ああああっ!
ビクッ
ぶるぶる


はぁ
イッたか
オッパイだけで
軽くイッたな
はぁ
でもこんなんじゃ
足りねぇだろ？
はぁ
ぶる
ぶる
……！
ビクッ
ヌル
やっ…！
グッ
ココで
イキたいんだろ？



…!!
ほう…


このままクライストを
手にすることができれば…
脱出できる…!
このまま・・・
ドクン




ビクッ
ああっ!!
グチュ


あっ…!!
ぶるぶる
……ッ!
あああぁっ!
おいお前
剣を取る前に
一度止まらなかったか?
あのまま行ってれば
剣を取れたんじゃ
ねぇのか?


ぶるぶる
やっ…！
ビクッ
はぁっ！
ビクッ
あのまま剣を取って
オレたちを倒すより
オレたちに
犯されるほうを
本能的に選んだんじゃ
ねえのか？
違うのか？
グチュ
ち…
違います！
そんなこと
…！
ヌル
ホント
かなぁ？
ヌル


ぶる
ぶる
くぅっ！
ヌル
ずっとこの奥に
刺激を与えて
欲しかったんだろ？
もみ
もみ
もみ
もみ
グチュ
グチュ
ホラホラ
ち…違います…ッ！
ビクッ
もっと…
もっと奥まで…


ぶる
ぶる
ビク
……っ!!
もみ
もみ
い…イク……!


おっと
続きはベッドの
上でな
ドサッ
くっ！
あっ…
もみ
もみ
やっ！
ギュッ
ダメだ…！
剣まであと少しのところまで
行ってたのに…！
グチュ
グチュ


この人たちを振り払って もう一度…!
…!!
ぶるぶる
ん…!!
イキたい…
はやくイキたい…
戦わないと…!
クロノスのために…!

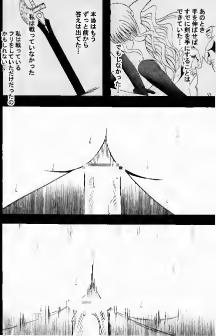

ビクッ
こ…この感触は…！


ドキッ
あっ…!
ヌル


ほらほら
さきっちょが
入っちまったぜ
脱出してみろよ
はあ
はあ
はあ
…
くうっ…!
ぶる
ぶる
せっかく
がんばったのに
結局はまたそうやって
犯されるのかい？
キミはその程度
だったのかい？
もっと
誇り高いところ
見せてくれよ
はあ
はあ
はあ
……ッ!!
ぶる
ぶる


ぶる
ぶる
……!!
ズ
ズんっ…!!
ズ
ぶる
ぶる
……!!


ほらセフィリア
剣をここまで持ってきてやったぞ
ぶる ぶる
まだ戦い続けたかったら手をのばすといい
ぶる ぶる
最高の快感を得たいならそのまま腰を沈めればいい
どちらを選ぶか…
キミの意思にまかせるよ


あのとき手を伸ばせばすでに剣を手にすることはできていた…
でもしなかった…
本当はもうずっと前から答えは出てた…
私は戦っていなかった
私は戦っているフリをしていただけだったのかもしれない…


私の意志…
イキたい…
私の意志は…
クロノスのために
戦うこと…
イキたい…もうガマンできない…
もう…
答えは出てる…


私はもう…
快感の虜になっていた…
ビクッ
ビクン


ズッ
ビクッ
ビクッ
・・・!!
ビクッ
ビクッ



来た…！
ビクッ
グチュ
ビクン
この…感じ…！
あっ…！！
一週間
待ち焦がれた…
うあぁっ！！
グチュ
グチュ



ビクッ
あっあああ!!


ぶる
ぶる
ビクッ


ぶるぶる
ぶるぶる
ククク…自分で腰を動かしてイキまくってやがる
ビクッ
ビクッ
もっと良くしてほしいならお願いしてみろよ
ぶるぶる
…!!


こうしてほしいんだろ？
グチュ
ズッ
…！
ほらほらちゃんと言ってみろよ
ヌル
ヌル
ぶる
ぶる
う…あ…
…ッ…！


はあ
あなたのペニスで もっと奥まで かきまわしてください
はあ
ビクッ
分かってんじゃねーか 奴隷としての振る舞いが
グチュ
あああッ！
ビクン


お前　まるで
何十年も前から
チ●ポ奴隷だった
みたいだぞ
ぶるぶる
…!!
ああぁ…もっと…
ビクッ
ビクッ
…ッ!!
グチュ
グチュ


もっと…もっと奥まで…！
突いてください！
きもちいい…
淫乱なメスのような言葉を口走ることがものすごく気持ちいい…！
オイケツにも入れてもらいたいか？
へへ…素直だなぁ
ぶるぶる
グッ
は…はいッ！
グリッ


あきっ!!
ビクッ
パンッ
パンッ
ビクッ
……っ!!
ぶるぶる


パン
んっ…!!
ぶるぶる
んんっ!!
パン
あっ!!…
あっ!!
…!!
どくっ


ぶるぶるっ
ビクッ
ビクッ
んんんっ!!
どくっ
どくん


はぁ
はぁ
どくっ
どくっ
!
おっと
一度出したからって
終わりじゃないぜ
ズ
ズ
ひっ！


そいつらはセックス専用に改良された人造人間だ
休むことなくセックスし続ける
グボッ
存分にかわいがってもらいたまえ
グボ
あっ…!!
あっ…
グボ
あっ!!
グボ


ああああっ!!
どくんっ
どくっ
ぶる
ぶる


ビクッ
ぶる
ぶる
ビクッ

■■■■■■あとがき■■■■■■

もともとはセフィリア極にのせるつもりだったんですが、セフィリア極のページ数が多くなりすぎたので分けました。
もともとセフィリアが完全に堕ちる内容のストーリーとして考えていました。
ここまで完全に堕ちるのはクリムゾンコミックス史上初ではないかと…。
烈火の傷跡のリンよりも堕ちていると思います。

しかし全体的に見るとなんだかムダに長いみたいな　薄い内容になってしまいました。
やはり強引にでもセフィリア極の最後に付け加えたほうが　話としては良かったのでは…と思います。クリードもなんでいるのか意味がない感じだったし…。

まぁしかしセフィリアハードシリーズは５作も続きました。
いろいろと好きなことができたので良かったと思います。

表紙は光の加減が難しかったですね。あんまり思い通りにはできませんでした。
表紙としてはやはりセフィリア極が良かったですね。

体調が悪いときに描いたページがイマイチです。淡白な感じですね。
やはりエロスは健康をベースに存在するものですね。

最後に出てくるセックス人造人間二人組はイマイチ弱かったかな～。と思います。獣人にしようかとも思いましたが、言葉攻めもしたかったのでやめました。

ともかくこれでシリーズは完結です。
もし今後セフィリアを描くとしたらまったく別のシリーズになると思います。

■■■■■■■■■■■■■■■■■